

# 長い歴史の中で 人と人とのつながりを大切に活動を続ける

組合事務所



**Q1** 労働組合の成り立ちや、支部の組合員数、役員体制は？

1945年、空襲で被害を受けたある新聞社の輪転機の修理を、当社が担当しました。それがきっかけで、その新聞社の労働組合から指導をいただいたことが、当社の労働組合結成につながったと聞いています。結成大会は1946年1月に開催されました。これが当労組の始まりです。

現在、組合員は120人、男性108人、女性12人と9割が男性です。女性従業員はほとんどが本社勤務で、この「かずさテクノセンター」には数人しかいません。執行部は全部で6人（委員長、副委員長、書記長、執行委員3人）、すべて男性です。執行委員会は毎月1回が原則ですが、最近では会社からの提案も多く、それ以上に開催しています。職場委員は10名います。

**Q2** 労働組合の伝統の中で大切にされているものは？

人とのつながりを大切にしています。自分一人では何もできないし、執行部だけで活動できるものでもなく、組合員が一致団結することが最も重要で不可欠であると考えています。

また、「TKシニア」という、主に定年退職者で



副執行委員長  
**則武 良彦**  
のりたけ・よしひこ  
執行委員3年、一旦組合を離れ2020年副委員長就任



執行委員長  
**高野 将寛**  
たかの・まさひろ  
執行委員2年、副執行委員長2年経験後、一旦組合を離れ2022年に執行委員長就任

構成する組織があるのですが、その方々からも助けていただいています。現在、組合員が少なくなっている中で、先輩方が残してくれた財産があるので、今の私たちの活動が成り立っています。現在、TKシニアの方は60人くらいおられます。実は、明日もシニアのイベントがあるんです。

**Q3** 労働組合の特徴的な活動は？

会社への対応はもちろんですが、組合員の可処分所得向上の取り組みを最も力を入れてやっています。今のロシアのウクライナ侵攻でも、我々の生活に与える影響は大きいと感じており、可処分所得の向上は重要だと考えています。

当労組は労金の推進幹事組合をやっており、他の幹事組合と連携しながら「積立NISA」などを紹介するなど、少しでも組合員の生活を守れればと思います。取り組みを行っています。

あと、春闘や一時金の交渉時に、交渉の経過報告の機関紙を発行しています。組合本部のあるこのテクノセンター以外に、距離的に離れた本社はもちろんのこと、グループ会社に向向している組合員もいます。どうしてもメールでの連絡になり

# JAM：東京機械労働組合



執行役員と職場委員が出席した「職場委員会」(2023年4月25日)

組合員向けの「とうきニュース」。  
当協議会機関誌の取材情報も掲載して  
いただきました。



がちですが、直接訪問して報告するようにしています。顔を合わせれば組合員の様子もわかりやすく、組合員にとって労働組合が近い存在になれるような活動を心がけています。

2011年に川崎からここに移転してきたので、住まいが川崎の方にある組合員も多いため、イベントなどをやるのは難しいのですが、コロナ前は潮干狩りなどをやったりしていました。今年はパーベキューを計画しています。

**Q4** その中で特に重点的に取り組んでいる活動は？

労使一体となった採用活動が重要だと思っています。一時は従業員が500人程度いましたが、今

は4分の1です。これは労働組合としても、近い将来危機的な状況になってくると考えています。他労組の方に話を聞いても、ものづくり産業では人が集めにくい時代になっている。これまで工業高校を中心に募集していましたが、工業高校でも就職希望者は3割程度です。その3割の中でも製造業へは1割くるかこないかという状況らしいです。そういう中で、どうやって人材を確保していけばいいのかというのが課題です。私たちと一緒に楽しく仕事をし、未来を切り開いていけるような人材を求めています。他労組とも連携しながら、会社と一緒に取り組んでいるところです。初任給や一時金などの労働条件の向上も課題です。

**Q5** 現在、労働組合としてチャレンジしていきたいことは？

先ほどの人材確保の話と同じですが、執行部の担い手の確保も課題です。執行部は6名体制ですが、現在、専従役員はいません。繁忙期は仕事と組合活動の両立はやはり難しくなっている状況です。その中で、どれだけ質を落とさずにやっているのか日々模索しているところです。

いままでは組合の役割ごとに担当・役割が決まっていたのですが、その垣根をなくして、いろ

いろな方に何でもやってもらおうようにしています。会社に戻らざるを得ない方が出た場合でも、他の人が対応できるような状況にしたいと思っています。それと女性の役員がいまないので、いつかは女性役員をと考えています。

あと、若年層が労組活動にあまり興味を示してくれない。「組合の中にはいたら楽しそうだな」と思ってもらえるようにしたいですね。皆さんと対話し、「コミュニケーションをとる中で、「あの人と一緒にやってみよう」と思ってもらえるように心がけています。

労組は深夜までやっているような昔のイメージがありますが、今はそれほど拘束時間も長くありませんし、面白いと思ってもらえればいいなと思っています。

**Q6** 最後に組合活動を進める上でモットーは？自身にとっての労働組合とは？

高野委員長組合員ファーストに尽きると思っています。それと労働組合というのは自分自身をさらに高め、成長させてくれます。JAMの仲間との交流もあって、大きな会社の方の話も聞ける。会社の仕事だけをしていたのでは知らなかったことを知り、自分の視野をひろげることにつながっています。

則武副委員長 長く組合をやっていた委員長が去年退任して、労働組合ってこんなに大変だったのかと実感しました。それまでは、まだ自分も組合の中に一歩入りこめていないところがあった。今は、地方JAMの執行委員会などにも出て、いろいろ勉強にもなっています。今まで労働組合のことを理解しているようで、理解していなかったことを感じるようになってきました。組合に関わることで自分の知識も増えるということも、もっと組合員に伝えていきたいと思っています。